

第11期 保育所長専門講座
受講案内

新たな時代の
Attendance

保育運営を学ぶ
Guidance

2010

主催

社会福祉法人 全国社会福祉協議会／全国保育協議会／全国保育士会

(実施主体：全国保育協議会)

後援 (予定)

厚生労働省／日本保育園保健協議会／社団法人 全国保育士養成協議会

新たな時代に 求められる 資質を高める



わが国では、子どもをめぐる環境が大きく変化し、少子化がすすむとともに、子育て不安や、児童虐待の増加、地域や家庭での養育力の低下などへの対応が課題となっております。

また、国では次世代育成支援に向けた新たな保育制度設計が進められています。

このような状況の中で、保育所には、すべての子どもと子育て家庭への支援が求められています。保育所長は、こうした保育をめぐる動向、時代の要請、地域のニーズをしっかりと見すえ、保育所の使命、役割を的確に捉えつつ、保育所を発展・充実させていく識見・力量が求められています。

とりわけ、保育・子ども家庭福祉施策の動きは、子育て家庭へのきめ細かな支援と、地域のすべての子育て家庭を対象にした支援の両面での充実が求められています。さらに保育の現場におけるソーシャルワーク機能の充実が必要になっています。

平成21年4月に施行された新たな保育所保育指針では、第7章に「施設長の責務」として自らの専門性の向上と多様な保育ニーズに対応する保育士の育成が示されています。職責のもと、保育を高めていくためには、保育所運営の責任を総合的に担う保育所長のより一層の研鑽が求められています。

本講座はこうした保育所長に求められる専門的能力の向上を図るとともに、時代の要請に応えられる保育リーダーを養成することを目的とした民間の自主的な専門研修プログラムとして11年目を向かえます。

実践的な カリキュラムと 効果的な学習方法

面接授業における指導

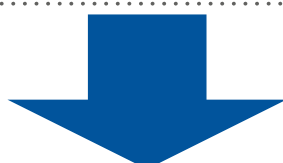
3日間の面接授業を年2回受講していただきます（日程はP.11参照）

一流の講師による講義・演習

第一線で活躍する面接授業指導講師による講義と参加型の演習を通じて学びます（面接授業の科目はP.5参照）

少人数制のゼミ指導

レポート作成の指導は、ゼミ指導講師より、10人以下の少人数制のゼミ形式できめ細かに行います



レポート指導（選択制）

保育所経営・運営レポートまたは保育研究レポートの添削指導を通じ学習を深めます（詳細はP.8参照）

自分の保育所の現状を分析し、 経営・運営計画を作成する 保育所経営・運営レポート

講師の個別指導のもとに、地域の状況分析、保育所の使命・役割の目標設定、自己点検および今後の行動計画等を検討することで、自分の保育所について考え、今後の保育所経営・運営管理に資するものとしします。

関心あるテーマを研究し、 広く発信する手法を身につける 保育研究レポート

受講者が関心をもつテーマを一つ選び、講師の個別指導のもとに深く掘り下げていくことで、保育所保育、子育て支援を考え、発信の手法（保育課題の研究・発表の手法）を学びます。

第11期保育所長専門講座の開講にあたって



第11期保育所長専門講座への受講のお薦め

保育所長専門講座運営委員会委員長
共立女子大学 教授

大嶋 恭二 氏

児童福祉施設としての保育所には、いつの時代、いつの社会にあっても、一人ひとりの子どもの健全な成長・発達と福祉の保障が要請されています。

保育所長には、地域の中で、今日の社会の保育・福祉ニーズに応える保育所の中心的な存在としてリーダーシップを発揮することが要請されます。すなわち、保育の質を高めるため、保育士を中心とした人材の確保と育成や子どもが安心して遊び、生活できる環境作りなどの基本的条件の整備から、施設運営管理の基礎である財務や危機管理等の整備も必要となります。さらには、地域社会、行政、保育組織・団体等との関係を中心とした対外的な活動等に対して責任を持ち、推進していくことも重要な役割となります。このように、今日の保育所長には、高度で多様な役割、機能を果たすことが求められており、その役割を果たすために保育所長自らの研鑽が必須のこととなっています。

本講座は、今回で第11期をむかえ、これまでに多くの修了生を輩出してきました。全国研究大会等で1年間の成果を発表されるなど、修了生は各地域のリーダーとして、日々活躍されています。この講座では、保育をめぐる情勢認識を深めるとともに今後の保育所の将来ビジョン、経営・運営のあり方について学び、各地域のリーダーとしての人材育成に資することを目的としています。

この第11期保育所長専門講座は、時代の流れに沿って保育所の新たな方向を見出す指導性を持った講座です。また、実績のある講師陣が担当する演習形式を持っていることもその特徴の一つです。各都道府県・指定都市行政や各社会福祉法人のご理解の下で、次代のリーダーとなるべき人を派遣していただきたいと思えます。また、自ら明日の保育を支えるための学びを求める人が現れることを希望しています。



子ども家庭福祉推進のリーダーをめざして

全国保育協議会会長

小川 益丸

平成21年は少子化対策特別部会で新しい保育制度が検討され、本年はその具体化が進められます。一方、保育所の最低基準の地方自治体への移譲や民間保育所運営費の一般財源化の動きなど、保育制度をめぐる厳しい課題もつきつけられました。

保育をめぐることは、子どもの育ちや子育て支援の質の向上に向けて4月に改定保育所保育指針が施行されました。保育計画が保育課程に改められ、内容の大綱化が図られたことで施設長を中心として各保育所運営の基本方針の確認等、質の向上への取り組みが求められるところとなりました。具体的には、保育所を利用する保護者への支援、地域における子育て支援が保育所の役割として位置づけられるとともに、職員の資質向上が施設長の責務とされました。

本講座は、時代の要請やこれからの変化に応える施設長のための講座として11期を迎えます。一流講師陣による内容は関係者から高い評価を受け、修了生は地域のリーダーとして活躍されています。明日の子ども家庭福祉の充実を担うリーダーをめざして多くの皆様が受講されることを期待します。

保育の質の向上に向けて —「保育所長専門講座」への期待—



厚生労働省雇用均等・児童家庭局 保育課長 **今里 讓 氏**

現在、多くの保育所では、次世代育成支援をめぐる様々な動きや制度改革の流れを見据え、足下を固めつつ、保育の未来像を描こうとしているのではないのでしょうか。その際、昨年改定された保育指針が保育の拠りどころになることはいうまでもありません。また、指針に示された原理原則を踏まえた創意工夫が重要であり、保育所にはこれまで以上に自らの保育を社会に発信していくことが求められます。

こうした中で、保育所の施設長の役割はたいへん重要であり、そのリーダーシップを発揮しつつ、適正な運営と保育の質の向上に結びつく取組を進めていただくことが期待されます。

全国保育協議会の「保育所長専門講座」はまさに、施設長自らの専門性を高め、保育所がエビデンスをもって社会に貢献していただくためにたいへん有意義な内容となっています。全国の多くの保育所長が受講されることを願っています。

第11期保育所長専門講座面接授業科目一覧

福祉・子育てをめぐる動向

<p>子ども家庭福祉をめぐる動向 (柏女霊峰氏)</p>	<p>子ども家庭福祉が大きな変革を迎えようとしています。それは、戦後60年以上、制度創設当時の体制をほぼ保ち続けてきた「子ども家庭福祉」に、新世界をもたらします。</p> <p>江戸幕府が230年の長きにわたって鎖国体制をとり続けているうちに世界のありようが大きく変わり、幕府は開国を余儀なくされました。同様に、子ども家庭福祉の体制も社会の変化に対応しきれず、少子化や子育ての孤立と負担感の増大、子ども虐待の社会問題化、地域の安全・安心の喪失と子どもや母子の困り込みにもつながりかねない問題に直面することとなりました。</p> <p>三位一体改革に係る地方六団体の補助負担金廃止提案が子ども分野に集中したことなどが、黒船</p>	<p>の到来を予測させています。子ども家庭福祉は、今まさに、明治維新前夜といってよいでしょう。開国派は、時代の変容とそれに伴う社会福祉・社会保障の周辺動向に目配りすることを求め、鎖国継続派は、時代が変わっても保障すべき子どもの最善の利益を重視することを求めます。この両派の和解と前進による新しい世界が求められています。</p> <p>本講義では、こうした時代の変わり目に当たり、近年の子ども家庭福祉や就学前保育をめぐる動向について整理し、保育所を時代のなかに位置づけつつ、今後を展望していきたいと思います。特に、次世代育成支援のための新たな制度体系の構築や保育制度改革の中身について詳しく検討、考察します。</p>
<p>保育所をめぐる課題と保育所の使命</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもや子育て家庭をめぐる状況 2. 子どもにとっての保育所の役割 3. 子育て家庭にとっての保育所の役割 4. 地域にとっての保育所の役割 5. 「社会全体で子育てを支援する」世論の形成や環境づくりをする 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 社会の全ての人子どもや子育てを支える仕組み 7. 経営問題 8. 私たちのビジョンと23のアクションプラン

保育・子育て支援の本質を理解する

<p>保育所の理念と目的 (石井哲夫氏)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼保教育の根本的課題 <ul style="list-style-type: none"> ・一生涯を通して考える人間形成の基本となる愛着と絆（信頼感の形成） ・家庭生活の変化とその支援（安全安定の生活の場作りと生活学習） ・発達障害への理解と支援 2. 「積極的子育て」についての考察 <ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康を育てる個別的生活学習 ・遊びの中での創造性と集団の学習 ・自発的な才能を育てる個別的保育計画の実践 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 新しい社会を目指す信頼性保育 <ul style="list-style-type: none"> ・幼・保共通に求められる社会的要請 ・日本の歴史から生活基盤を求める ・意識的にすすめるべき信頼性保育 4. 保育ソーシャルワーク論 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者関係（コミュニティ認識） ・地域子育て保育と地域交流 ・他資源との連携活動
<p>保育・子育て支援の本質を学ぶ ①乳児 (巷野悟郎氏)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の分類と乳児期の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・新生児・乳児・幼児・学童（児童福祉法） ・0・1・2歳児と3・4・5・6歳児（保育の現場で） ・母の子宮内で育ってきた新生児・乳児 2. 乳児の健康と病気 <ul style="list-style-type: none"> ・乳児の発育と生理と症状を理解する ・病気異常の軽重の判断と対応 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 乳児保育の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・からだと心の基礎が育つ ・育っていく乳児には必要な保育士と家族の連携 ・地域の育児情報と子育て支援 4. 各論 <ul style="list-style-type: none"> ・病児保育・長時間保育・くすり・アレルギー・アトピー性皮膚炎・感染症・事故・生活リズム・乳幼児突然死症候群等、時宜に応じた項目を選択
<p>保育・子育て支援の本質を学ぶ ②幼児</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所がもつ2つの社会的役割 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健やかな育ち ・子育ての支援（家族の援助） 2. 時系列的にみた2つの役割 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる人間形成の基礎を培う ・生活時間の大半を過す 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 保育所保育の特性 <ul style="list-style-type: none"> ・方法的特性・養護と教育の一体 ・目的的特性・豊かな人間を育成 4. 一人一人の子どもを育てるための保育内容－発達過程区分 5. 保育所在園で身につけることが望まれる心情・意欲・態度

地域の視点

<p>地域の 子育て課題と 保育所 (山縣文治氏)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域子育て支援が求められる背景 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの側の事情 ・保護者の側の事情 ・地域の側の事情 ・社会の側の事情 2. 地域子育て支援施策と保育所 <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の保育所の展開 ・保育所で可能な施策 ・保育所以外が中心で行われる施策 	<ol style="list-style-type: none"> 3. 地域子育て支援事業の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・親子や地域の実情の把握（アセスメント1） ・課題の抽出（アセスメント2） ・目標の設定 ・事業内容・方法の計画（プランニング） ・事業の実施 ・事業の振り返り（エバリュエーション） ・目標あるいは内容・方法の修正 ・事業の再実施 ・終結 4. 具体的に考えてみよう
--	--	---

新しい保育の課題

<p>保育ソーシャル ワークの実践 (金子恵美氏)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育ソーシャルワークとは 2. 相談援助技術の基礎 <ol style="list-style-type: none"> ① コミュニケーション・スキル ② 面接技術 ③ ケースマネジメント ④ スーパービジョン 3. 保護者理解と対応の方法 <ol style="list-style-type: none"> ① 説明責任（アカウンタビリティ） ② パートナーシップ ③ エンパワメント ④ ピアサポート 4. 親子支援プログラムの理解 5. 保育所や地域における情報共有 <ol style="list-style-type: none"> ① 情報共有の意義と方法 ② 個人情報取扱いに関するルール ③ 情報共有のための地域システム ④ 共有した情報の活用方法 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 地域における多様な連携と協働 <ol style="list-style-type: none"> ① 子育て支援のネットワーク作りの意義 ② 子育て支援の総合的な拠点としての保育所 ③ NPO・ボランティア等地域資源の認識 7. 関係機関・施設のネットワーク <ol style="list-style-type: none"> ① 多職種・多機関の役割の相互理解 ② 地域との連携・支援 ③ 社会資源の育成（ピアサポートグループ、セルフヘルプグループ等を含む活動支援） 8. コミュニティワークの理解 <ol style="list-style-type: none"> ① ソーシャルワーク・リサーチ ② ソーシャルワーク・プラン（次世代育成支援行動計画の策定） ③ コーディネート・ファシリテート ④ 地域のセーフティネットづくり（子どもを守るネットワーク） ⑤ アウトリーチ
--	--	---

保育の研究

<p>保育研究の方法 (平田幸宏氏)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマの設定 2. 研究方法の確定と研究の実施 3. 研究結果のまとめと公表 4. 具体的な研究方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践の積み重ねから考察する研究方法 ・外的指標等を用いた研究方法 ・独自のアンケート調査を用いた研究方法 ・外的基準・対照調査などを用いた研究方法 等
-----------------------------------	--	---

保育所経営の向上・改善

<p>保育所における 人材育成と スーパービジョン (倉石哲也氏)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. スーパービジョンとは何か？ 2. スーパービジョンの必要性和機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支持的機能 (2) 教育的機能 (3) 管理的機能 	<ol style="list-style-type: none"> 3. スーパービジョンの形態 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個人スーパービジョン (2) グループスーパービジョン (3) ライブスーパービジョン (4) ピアスーパービジョン 4. スーパービジョン関係形成の重要性 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個人的な感情の行き来 (2) スーパーバイザーの姿勢
--	---	---

保育所経営の ビジョンと戦略 (関川芳孝氏)

保育園の取り巻く環境の変化を踏まえつつ、
厳しい状況のなかであっても成長と発展を続
ける保育所運営のあり方を考察する。

1. 保育所をとりまく環境の変化と保育所経営
 - ・改革のトレンドを読む
 - ・脅威と機会を考える
 - ・わが保育園の強みと弱み
 - ・経営改革の課題を考察する

2. 保育所経営のビジョンと戦略

- ・保育所経営の理念および使命とは
- ・これからの3年何に取り組みますか
- ・変化に柔軟に対応できる保育園づくり

3. 保育マーケティング

- ・保育園に対するニーズとは
- ・選ばれる保育園づくり
- ・信頼される保育園づくり

自己点検と 保育の質の向上 (増田まゆみ氏)

保育所は、今、我が国の子育て・子育てが危機
的状況にある中で、子どもの最善の利益を考慮し
て、子どもの保育と保護者への子育て支援等様
々な新たな機能を果たすことが求められている。
また、長年にわたって続いてきた保育所・幼稚園
という二元体制から、認定こども園等多様な就学
前保育が行われ、多様性・柔軟性・効率性等が問
われている。

このような保育の大変革期に、平成21年4月、
告示化された改定保育所保育指針に基づいて保育
に取り組んでいくこととなっている。改定保育所
保育指針には、保育所の役割、保育の計画と評価、
職員の資質向上等の中で、施設長の責務も含めて
新たな内容が盛り込まれている。保育所長として
大切なことは、時代の大きな流れや制度等に目
を向けると共に、常に保育の原点に立ち戻って、子
どもが心身共に健やかに育つことを第一義にした
保育を実践するシステムを構築し、地域の中で存
在感ある保育所となることである。

そのためには、子ども・保護者を見る目、そし
て保育を見る目を確かなものにしていくことが必
須であり、園内の研修システムの構築は重要な課
題である。中でも日々の保育実践に基づく園内研
修の充実を図り、第三者評価をも視野に入れた、
私の保育、私の園の保育の自己点検に取り組み、
その結果として、一人ひとりの職員及び組織体
としての力量が高まり、保育の質の向上に繋がる
ようにするのが所長の責務といえる。

今、重要なことは、日本の未来に国民が希望を
もてるようにしていくために、子ども・子育てに

やさしい社会の実現であり、社会全体の次世代育
成支援推進という広い視野で、「子どもの最善の
利益を」を第一義にした、子ども・家族・地域を
包含した就学前の保育のあり方、内容について園
内外で大いに語り、社会に向けて発信していくこ
とである。発信が信頼に足るものになる基盤が、
それぞれの園の保育の質の高さにあるといえよ
う。保育の質の向上に資するための評価、研修シ
ステムのあり方の基本とその現状・課題について
学び合うことを目的とする講義である。

1. 何故、保育の質が問われるのか

- ・改定保育所保育指針の基本的考え方と保育の
質の向上

2. 私の園の保育は・職員は～自己点検・苦 情解決と第三者評価

- ・保育所における苦情解決の意義・重要性につ
いて
- ・保育の計画と自己評価・公表
- ・自己評価と外部評価
- ・自己評価を基盤とする第三者評価とは～経緯
と実態

3. 職員研修の意義とその方法を問う

- ・園内研修を核とした研修計画と方法
- ・一人一人の保育者の自己研修（自己研鑽）の
積み重ねが園の組織体としての保育の力量・
質を高める

4. あらためて「保育の質」とは

- ・保育の質を規定する要因
- ・求められるのは職員の人間性・専門性

5. これからの園長に求められるもの

「保育活動専門員」認定制度について

全国保育協議会および全国保育士会では、主催する大会・研修会を通じて継続的な学習を行った
方に対して「保育活動専門員」認定証（任意）を発行しています。

本制度は、大会・研修会に参加して得られる参加ポイントを設定し、一定数以上のポイントと認
定レポートを提出することが必要ですが、本講座を修了することで、認定に必要なポイントが取得
できるとともに、認定レポートの提出も免除となります。

本講座の受講と併せて、日々の保育活動の証として「保育活動専門員」の認定を受けられること
をお勧めします。

面接授業を指導する一流の講師陣

- 主な講師
- 石井 哲夫 氏 (子どもの生活研究所所長)
 - 柏女 霊峰 氏 (淑徳大学教授)
 - 金子 恵美 氏 (日本社会事業大学准教授)
 - 倉石 哲也 氏 (武庫川女子大学准教授)
 - 巷野 悟郎 氏 ((社)母子保健推進会議 会長)
 - 関川 芳孝 氏 (大阪府立大学教授)
 - 平田 幸宏 氏 (東洋英和女学院大学准教授)
 - 増田まゆみ 氏 (目白大学教授)
 - 山縣 文治 氏 (大阪市立大学教授)



共通レポート

事前レポート 講座の受講にあたって

面接授業前に、講座を受講するにあたっての抱負や、現時点で関心のあるテーマ、研究してみたいテーマについて述べてください

(500字)



保育所経営・運営レポート

レポート No.1-1 保育所を取り巻く環境を分析する

制度・施策の動向や地域ニーズの動向などを分析し、これから自分の保育所が果たすべき役割について考察し、目標を設定します

(3,000字)



レポート No.1-2 自分の保育所の現状を分析する

自分の保育所の目標を達成するために、自分の保育所にどのような資源（人材・サービス等）があり、何が不足しているのかを分析します

(3,000字)



レポート No.1-3 保育所経営・運営レポートの下書き (これからの自分の保育所の行動計画)

これまでに作成したレポートをベースにして、これから自分の保育所の目標を達成していくための具体的な行動計画を検討し、保育所経営・運営レポートの下書きを作成します



レポート No.1-4 保育所経営・運営レポート (これからの自分の保育所の行動計画)

完成版のレポートを提出します。

(8,000字以上)

学習の成果を確かなものとする実践的なレポート

少人数制のゼミによる
きめこまかな指導

- ① 1人の講師につき、受講者は概ね10名以内です
- ② 2回の面接授業時の指導とレポート添削を通じてゼミ指導講師による指導を受けます

※「保育所経営・運営レポート」「保育研究レポート」

レポート選択制による
実践的な課題への対応

自分の保育所の経営計画を作成する
保育所経営・運営レポート

- ① レポートを通じて、自分の保育所の経営・運営計画を検討します。

関心を持つテーマを徹底的に研究する
保育研究レポート

- ① 自分の関心に基づくテーマを選び、レポートを通じて研究・発表の手法を学びます。

保育研究レポート

レポート No.2-1

研究の内容および方法

修了レポートのテーマを検討し、研究の目的や方法などについて論述します

(2,000字)



レポート No.2-2

保育研究レポートの下書き

研究の結果をふまえ、修了レポートの下書きを作成します



レポート No.2-3

保育研究レポート

完成版のレポートを提出します

(10,000～20,000字)

《過去のレポートのテーマ例》

- 保育所経営・運営レポートでは、普段気になっている事柄や、保育所の経営・運営上の課題など身近なテーマについて、研究を深めていくことができます。
- 保育研究レポートでは、全体的な保育所経営から、保育内容、子どもの発達に関する基礎的な研究など、自由なテーマを設定できます。

保育所の経営・運営課題に関するテーマの例

- 住民に選ばれる保育所経営と働きやすい職場環境を目指す
- 子どもの最善の利益を保障する保育運営のあり方とは
- 運営・管理能力を高め保育サービスの資質向上を考える
- 保育の質の向上を施設運営と職員の処遇の視点から考える
- 地域社会における保育所のあるべき姿についての一考察
- 株式会社による保育所運営・経営の責任者として
- 春日井福祉会の今後と人材育成—研修プログラムを考える—

保育内容・子育て支援に関するテーマの例

- 保育園における子育て支援—集団の中での個の育ちを考えるために—
- 保育所における健康支援の課題
- 放課後児童クラブのサービスの質の向上を目指して
- 我が園の職員の資質の向上をめざして—改定保育所保育指針第7章を基に—
- 地域に愛され、魅力ある保育園を目指して
- 保育者として大切にしていきたいこと—改定保育指針から学ぶ—
- 気がかりな子どもの育ちを支えるために—支援を必要とする児童の就学支援シートの開発—

第11期保育所長専門講座の概要および受講申込要領

1 受講期間

平成22年5月1日～平成23年3月31日

2 受講定員

70名

3 受講資格

- ①保育士資格または社会福祉主事任用資格を有し、現在、保育所長または保育所長に準ずる職にある者
- ②上記に準ずるとみなされる者

4 受講申し込み手続きおよび申し込み期限

「受講申込書」（別紙様式）に所要事項を記入のうえ、平成22年3月5日(金)までに、都道府県・指定都市社協保育協議会（保育組織）まで送付してください。

5 受講の承認

選考のうえ、4月下旬頃に受講承認結果を通知します。

6 受講料

150,000円（面接授業における交通費・宿泊費・交流会費等は含みません）

7 修了認定

所定の課程の修了後、社会福祉法人全国社会福祉協議会会長および全国保育協議会会長より修了証書を交付します。

8 学習内容

本講座は4～5本のレポート作成・提出と、2回（前期・後期）の面接授業からなります（面接授業は全回、全日程出席が必要です）。

①面接授業の日程

	前 期	後 期
日 程	平成22年6月3日(木) 13:00から ～6月5日(土) 17:10まで	平成22年9月30日(木) 13:00から ～10月2日(土) 17:10まで
会 場	「全社協議室」 千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル内	

※演習指導（ゼミ）の都合により終了時間が変わる場合がありますので、あらかじめご了承ください。詳細は受講承認時にご案内いたします。

②合計4本または5本のレポートを提出し、演習指導講師による指導および評価を受けます。

レポートは以下の2つのテーマからどちらか1つを選択します。

(1) 保育所経営・運営レポート：

- ①講座の受講にあたって（500字）、②「保育所を取り巻く環境を分析する」（3,000字）、③「自分の保育所の現状を分析する」（3,000字）、④保育所経営・運営レポートの下書き（これからの自分の保育所の行動計画）、⑤保育所経営・運営レポート（8,000字以上）

(2) 保育研究レポート：

- ①講座の受講にあたって（500字）、②研究の内容および方法（2,000字）、③保育研究レポートの下書き、④保育研究レポート（10,000～20,000字）

9 本講座に関するお問い合わせ先

全国社会福祉協議会児童福祉部（全国保育協議会事務局）担当 藤高・岡澤

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

TEL：03-3581-6503 Fax：03-3581-6509 E-mail：zenhokyo@shakyo.or.jp

第11期保育所長専門講座 面接授業プログラム（予定）

*プログラムは実際の運営にあたって変更の可能性もありますので予めご了承ください。

前期 平成22年6月3日(木)～5日(土)

	9:30	11:00	11:20	12:00	13:00	13:40	15:10	15:30	17:00	17:30	19:30
3日 木					受付	開講式・オリエンテーション	保育の理念と目的 石井 哲夫氏		保育・子育て支援の本質を学ぶ①乳児 巻野 悟郎氏		交流会
4日 金		保育所経営・運営管理		保育研究の方法 平田 幸宏氏	昼食	保育所経営のビジョンと戦略 関川 芳孝氏		演習（ゼミ）	自主勉強会		
5日 土		地域の子育て課題と保育所 山縣 文治氏		保育・子育て支援の本質を学ぶ ②幼児	昼食	演習（ゼミ）					

後期 平成22年9月30日(木)～10月2日(土)

	9:30	11:00	11:20	12:00	13:00	13:40	15:10	15:30	17:30	18:00	20:00
30日 木					受付	開講式	行政説明		保育をめぐる課題と保育所の使命		交流会
1日 金		保育ソーシャルワークの実践① 金子 恵美氏		保育ソーシャルワークの実践② 金子 恵美氏	昼食	保育所経保育所における人材育成とスーパービジョン 倉石 哲也氏		演習（ゼミ）	自主勉強会		
2日 土		自己点検と保育の質の向上 増田 まゆみ氏		子ども家庭福祉をめぐる動向 柏女 霊峰氏	昼食 閉講式	演習（ゼミ）					

第11期保育所長専門講座受講申込書

平成 年 月 日

全国社会福祉協議会
全国保育協議会 会長 殿

都道府県・指定都市保育協議会会長名

(印)

このたび、下記の者を「第11期保育所長専門講座」受講者として推薦します。

ふりがな		男	年齢	保育所での 経験年数	年 月
氏名		女	歳	所長としての 経験年数	年 月
法人・施設 所在地	〒□□□□-□□□□				
TEL	— —		FAX	— —	
設置形態	公設公営 ・ 公設民営 ・ 民設民営				
法人・施設名			役職名		
保有資格	<input type="checkbox"/> 保育士資格 <input type="checkbox"/> 社会福祉主事任用資格		備考		
			メールアドレス		

個人情報の取り扱いについて

本会における個人情報の取り扱いは、本会の「個人情報保護に関する方針等について」に基づいて取り扱います。(個人情報の保護に関する方針は全保協ホームページでご覧いただけます。)

「受講申込書」に記載された個人情報は、本講座の運営・管理の目的に限り使用します。

また、講座の参加者名簿に「氏名」「都道府県・指定都市名」「施設・運営主体名」「職名」を記載します。

なお、本講座の宿泊手配等に関する業務を名鉄観光㈱新霞ヶ関支店に委託し実施するため、上記の目的の範囲に加え宿泊手配等のサービス提供を目的として情報を共有します。